

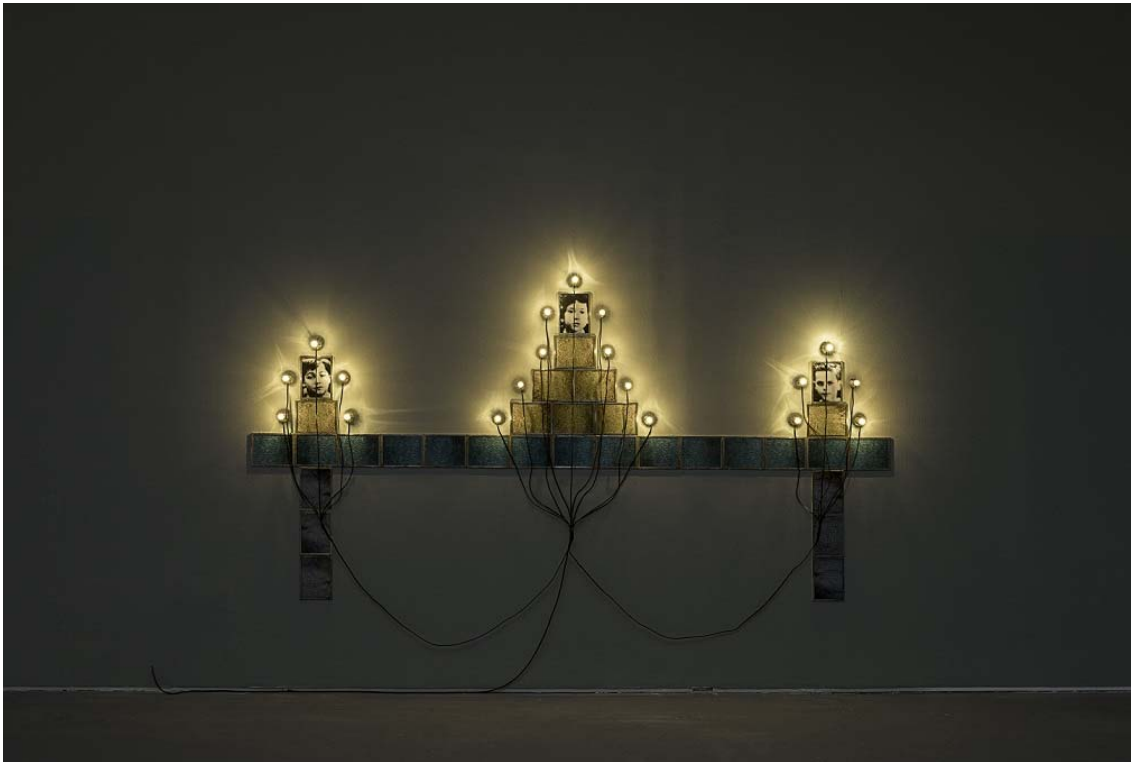
PRESS RELEASE

2018/11/28 (2019/1/8 改訂)

## クリスチャン・ボルタンスキー — Lifetime

2019年2月9日(土) — 5月6日(月・休)

国立国際美術館



《モニュメント》1986年 作家蔵

© Christian Boltanski / ADAGP, Paris, 2019,

Photo © The Israel Museum, Jerusalem by Elie Posner

## PRESS RELEASE

クリスチャン・ボルタンスキー – Lifetime

### 開催情報

展覧会名 クリスチャン・ボルタンスキー – Lifetime

英語名 Christian Boltanski - Lifetime

主催 国立国際美術館、朝日新聞社

後援 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本

協賛 ダイキン工業現代美術振興財団

会期 2019年2月9日（土）— 5月6日（月・休）

会場 国立国際美術館 地下3階展示室（〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-55）

開館時間 10：00 — 17：00 ※金曜・土曜は20：00まで（入場は閉館の30分前まで）

休館日 月曜日（ただし、2月11日（月・祝）、4月29日（月・祝）、5月6日（月・休）は開館）、2月12日（火）

観覧料 一般900円（600円） 大学生500円（250円）

（ ）内は20名以上の団体料金

高校生以下・18歳未満無料（要証明）・心身に障がいのある方とその付添者1名無料（要証明）

本料金で、同時開催の「コレクション3」もご覧いただけます。

夜間割引料金（対象時間：金曜・土曜の17：00—20：00）一般700円 大学生400円

一般のお客様からのお問い合わせ先 国立国際美術館 TEL: 06-6447-4680（代表）

URL <http://www.nmao.go.jp/>

### 交通アクセス

京阪電車中之島線「渡辺橋駅」（2番出口）から南西へ徒歩約5分・Osaka Metro四つ橋線「肥後橋駅」（3番出口）から西へ徒歩約10分・JR「大阪駅」、阪急電車「梅田駅」から南西へ徒歩約20分・JR大阪環状線「福島駅」、東西線「新福島駅」（2番出口）から南へ徒歩約10分・阪神電車「福島駅」（3番出口）から南へ徒歩約10分・Osaka Metro御堂筋線「淀屋橋駅」、京阪電車「淀屋橋駅」（7番出口）から西へ徒歩約15分

大阪シティバス「大阪駅前」から、53号・75号系統で、「田養橋」下車、南西へ徒歩約3分  
当館には専用駐車場はありません。ご来館は電車・バス等をご利用ください。

心身に障がいのある方で、車で来館される場合は、当館北側の有料駐車場をご利用くださいますようお願いいたします。

同時開催 2月9日（土）— 5月6日（月・休）

「コレクション3：見えないもののイメージ」

次回展 5月25日（土）— 8月4日（日）「抽象世界」、「ジャコメッティとI」

## 開催趣旨

クリスチャン・ボルタンスキー（1944年-）は、現代のフランスを代表するアーティストのひとりです。1960年代後半より短編フィルムを発表し始めたボルタンスキーは、1970年代に入り、写真を積極的に用いるようになりました。人が歩んできた歴史や文化人類学への関心を土台とし、写真やドキュメントとビスケッタン缶などの日用品を組み合わせることで、自己あるいは他者の記憶に関連する作品を多数制作し、注目を集めます。1980年代に入り、明かりを用いたインスタレーションを手掛けるようになったボルタンスキーは、子どもの肖像写真と電球を祭壇のように組み合わせて展示した「モニュメント」シリーズ（1985年-）で宗教的なテーマに取り組みます。それを発展させた《シヤス高校の祭壇》（1987年）は、1931年にウィーンの高校に在籍したユダヤ人の学生たちの顔写真を祭壇状に並べ、その写真を電球で照らすというものでした。肖像写真を集めて展示する手法は、大量の死者の存在、具体的にはナチス・ドイツによるユダヤ人の大虐殺とその犠牲者のイメージを想起させるものとして解釈され、大きな議論を呼びました。第二次世界大戦期のユダヤ人の大虐殺は、ユダヤ系の父を持つボルタンスキー自身の問題とも結びつきます。パリのグラン・パレの広大なスペースを生かし、大量の衣服を集積させた《ペルソンヌ》（2010年）など、その後もさまざまな手法によって、歴史や記憶、そして死や不在をテーマとした作品を発表します。

1970年代からドクメンタ（ドイツ・カッセル）やヴェネチア・ビエンナーレなどの現代美術国際展に招待され、活躍の場を世界各地に広げたボルタンスキーは、日本でも、1990～91年にICA名古屋と水戸芸術館で初個展を開催した後、越後妻有アートトリエンナーレや瀬戸内国際芸術祭などで積極的に展示活動を行っています。2016年には東京都庭園美術館で個展が開催されました。

国立国際美術館、国立新美術館、そして長崎県美術館の3館が共同で企画する本展は、ボルタンスキーの初期作品から最新作までを紹介する、国内初めての大規模な回顧展です。1970年代から近年までのボルタンスキーの様々な試みを振り返ると同時に、ボルタンスキー自身が「展覧会をひとつの作品として見せる」と語るように、作家自身が会場に合わせたインスタレーションを手掛けるという構想のもとに企画されました。半世紀を超える作家活動を経て、いまなお、積極的に創造を続けるボルタンスキーの広大な芸術世界を紹介いたします。

## 本展のみどころ

- 現代のフランスを代表する作家クリスチャン・ボルタンスキーの、日本では初めてとなる大規模な回顧展。日本初公開作品も多数。
- 初期の作品から最新作まで、半世紀にわたる創作活動の軌跡を紹介。
- ボルタンスキー自身が展覧会の企画段階から携わり、彼が「展覧会をひとつの作品として見せる」と表現する会場構成で展示します。

## 作家略歴 クリスチャン・ボルタンスキー

1944年、パリ生まれ。写真や身分証明書といった記録資料と衣服や文房具といった日用品を組み合わせることで、自己あるいは他者の記憶に関連する作品を制作し、注目を集めるようになる。子どもの肖像写真と電球を祭壇のように組み合わせた「モニュメント」シリーズ（1985年-）や、大量の衣服を集積させた《ペルソンヌ》（2010年）など、現在まで一貫して、歴史や記憶、死や不在をテーマとした作品を発表している。2006年、高松宮殿下記念世界文化賞受賞。

## 関連イベント

[クリスチャン・ボルタンスキー アーティスト・トーク]

2月9日（土）14：00 —

講師：クリスチャン・ボルタンスキー（本展出品作家）

会場：国立国際美術館 地下1階講堂

参加無料、逐次通訳付、先着130名、当日10：00から整理券を配布します

[講演会]

4月6日（土）14：00 —

講師：湯沢英彦（明治学院大学文学部フランス文学科教授）

会場：国立国際美術館 地下1階講堂 参加無料、先着130名、当日10：00から整理券を配布します

[ギャラリー・トーク]

2月22日（金）18：00 — 〈プレミアムフライデー企画〉

3月16日（土）14：00 —

4月26日（金）18：00 — 〈プレミアムフライデー企画〉

会場：国立国際美術館 地下3階展示室

参加無料（要観覧券）、開始30分前から聴講用ワイヤレス受信機を貸し出します（先着90名）

PRESS RELEASE

クリスチャン・ボルタンスキー – Lifetime

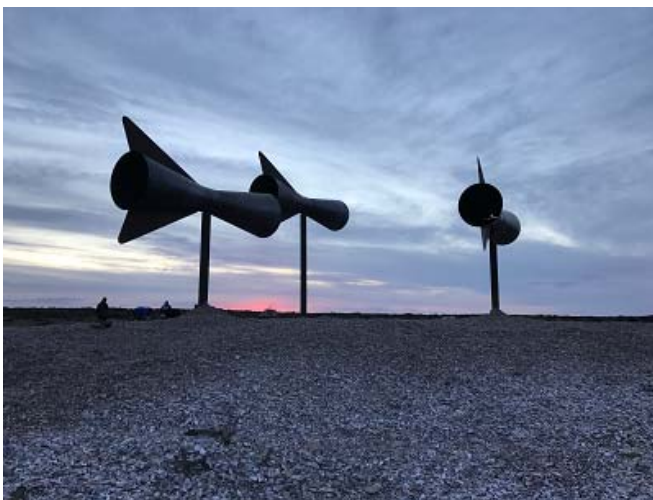
広報画像



《モニュメント》1986年 作家蔵  
© Christian Boltanski / ADAGP, Paris, 2019  
Photo © The Israel Museum, Jerusalem by Elie Posner



《保存室（カナダ）》1988年  
イデッサ・ヘンデルス芸術財団、トロント  
© Christian Boltanski / ADAGP, Paris, 2019,  
Ydessa Hendeles Art Foundation, Toronto,  
Photo by Robert Keziere



《ミステリオス》2017年 作家蔵  
© Christian Boltanski / ADAGP, Paris, 2019,  
Photo by Angelika Markul

## PRESS RELEASE

クリスチャン・ボルタンスキー – Lifetime

広報画像は、本展の広報を目的とした場合に限り、ご使用いただけます。

「広報画像申込書」にて申請していただきますようお願いします。

「広報画像申込書」は、国立国際美術館のホームページからダウンロードしていただけます。

国立国際美術館「プレスの方へ」 URL <http://www.nmao.go.jp/press/>

画像と一緒に送るキャプションおよびクレジットを明記してください。

画像のトリミングや、画像に文字を重ねての使用はできません。

インターネットに掲載する場合は、無断転載禁止の旨を明記のうえ、ダウンロードできないように加工してご使用ください。

会期・会場・画像キャプションなどの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階で広報担当までメールまたはFAXにてお送りください。

掲載（放映）終了後に、掲載出版物または録画メディアを広報担当宛にお送りください。

インターネットに掲載した場合は、URLをお知らせください。

画像の二次利用や転載はお断りいたします。使用後は画像データを破棄してください。

### 広報に関するお問い合わせ先

国立国際美術館 学芸課 広報担当 冬木明里

E-mail: [kouhou@nmao.go.jp](mailto:kouhou@nmao.go.jp) TEL: 06-6447-4671(直通) FAX: 06-6447-4698(学芸課)

### 展覧会担当

中井康之（国立国際美術館副館長兼学芸課長）